

★ 一次救命処置の年齢別比較 ★

大項目	年齢		成人(思春期以降) 年齢:15歳超が目安	小児(1歳～思春期以前) 年齢は15歳程度、中学生までが目安	乳児(1歳未満)
	手技				
心肺蘇生法	AED	使用のタイミング	・AEDが到着したら、速やかに電源を入れる。		
		電極パッドの貼り付け	<ul style="list-style-type: none"> ・AED電極パッドは、電極パッドや袋に描かれたイラストに従って胸の右上(鎖骨下で胸骨右)と胸の左下側(脇下5～8cm)乳頭の斜め下に貼り付ける。この間も胸骨圧迫は続ける。 ・電極パッドを貼る場所に医療用の植え込み器具がある場合には、パッドを離して貼る。 ・貼り薬(ニトログリセリン・ニコチン・鎮痛剤・ホルモン剤・降圧剤など)や湿布薬が電極パッドを貼り付ける位置にある場合は、それを剥がして電極パッドを貼り付ける。 ・傷病者の胸が濡れている場合には、乾いた布やタオルで拭き取ってから、電極パッドを貼り付ける。 ・小児用パッドを小学生以上に使用しない。 		
		電気ショックと心肺蘇生の再開	<ul style="list-style-type: none"> ・AEDによる心電図解析が開始されたら、傷病者に触れないようにする。AEDの音声メッセージに従って電気ショックを行う。電気ショック後は直ちに胸骨圧迫から心肺蘇生を再開する。 ・AED音声メッセージが「ショックは不要です」の場合は、ただちに胸骨圧迫から心肺蘇生を再開する。 ・AEDは2分おきに自動的に心電図解析を行うので、音声メッセージに従う。その後も心肺蘇生とAEDの手順を繰り返す。 		
		小児への電気ショックの実施	未就学(およそ6歳まで)に対しては、小児用パッドを用いる。小児用パッドがないなどやむを得ない場合成人用パッドで代用する。	乳児に対しては、小児用パッドを用いるべきである。小児用パッドがないなどやむを得ない場合、成人用パッドで代用する。	
	心肺蘇生の継続	<ul style="list-style-type: none"> ・救急隊などに引き継ぐ、または傷病者に普段どおりの呼吸や目的のある仕草が認められるまで続ける。 ・AEDを装着している場合は電源を切らず、パッドは貼付したままにする。 			
気道異物による窒息	反応がある場合	<ul style="list-style-type: none"> ・強い咳ができる場合には、咳をさせて異物の排出を促す。 ・窒息と判断すれば、直ちに119番通報を誰かに依頼した後に、腹部突き上げや背部叩打を試みる。 ・異物が取れるか反応がなくなるまで2つの方法を数度ずつ繰り返す。 ・明らかに妊娠していると思われる女性や高度な肥満者に腹部突き上げは行わず、背部叩打のみを行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・気道異物による窒息と判断した場合は、直ちに119番通報(緊急通報)を誰かに依頼後に、頭部を下げて背部叩打や胸部突き上げを実施する。 ・腹部突き上げは行わない。 ・異物が取れるか反応がなくなるまで2つの方法を数度ずつ繰り返して続ける。 	
	反応がない場合	<ul style="list-style-type: none"> ・傷病者がぐったりして反応がなくなった場合は、心停止に対する心肺蘇生を開始する。まだ119番通報されていなければ、直ちに119番通報し、近くにAEDがあれば持ってくるように頼む。 ・心肺蘇生を行っている途中で異物が見えた場合は、それを取り除くが、見えない場合には、やみくもに口の中に指をいれて探らない。また、異物を探すために胸骨圧迫を長く中断しない。 			



**小児救急
支援アプリ**

お子さんの症状から「緊急性」を判断し、救急車を呼ぶべきか？救急相談すべきか？医療機関を受診すべきか？の判断をアプリで行うことができます。

下のQRコードをスマートフォンで読み取って下さい。



<http://119aed.jp/baby7119/>